

数学・数理解析専攻（数学系）志望研究分野調査書

この調査書は口頭試問の参考資料です。以下の項目（裏表）について、パソコンまたは黒ボールペンを使用するなど明瞭に書いてください。パソコンを使用する場合は枠の大きさを変更しないでください。

氏名 _____ (フリガナ) _____

出身： _____ 大学 _____ 学部（もしくは学系） _____ 学科

(西暦) _____ 年入学 (西暦) _____ 年卒業 (予定)

(セミナー・課題研究を履修した場合はその指導教員名： _____)

テキスト名： _____)

(1) 下にある(中区分の内訳)を参考にして、希望する中区分を下記の一覧から選び、下の枠内に記入して下さい。第1希望中区分は必ず書いてください。第2希望中区分は可能な限り書いてください。第3希望中区分については、希望しない場合は「なし」と記入してください。第1希望中区分、第2希望中区分、第3希望中区分に記入する中区分はすべて異なるものにして下さい。また、希望する指導教員または希望する分野の詳細(例えば、代数幾何学、微分幾何学、偏微分方程式など)があれば、希望中区分の下の枠内に記入して下さい。ただし学際融合1の志願者は事前選抜に合格する必要があります。詳しくは募集要項の【17. 学際融合コース】を参照して下さい。

中区分： 代数学1、代数学2、幾何学1、幾何学2、解析学1、解析学2、応用数学、保険数学、計算機科学、学際融合1

第1希望中区分	第2希望中区分	第3希望中区分
指導教員または分野詳細	指導教員または分野詳細	指導教員または分野詳細

(中区分の内訳) 上記中区分の代数学1、代数学2、幾何学1、幾何学2、解析学1、解析学2、応用数学、学際融合1の分野の大きな内訳は以下の通りです。

代数学1：数論、表現論

代数学2：代数幾何学

幾何学1：トポロジー

幾何学2：微分幾何学、離散群論、エルゴード理論

解析学1：偏微分方程式、実解析学

解析学2：確率論、関数解析、作用素環論、力学系

応用数学：非線形解析、数理モデリング、データ解析

学際融合1：鍛冶静雄、数学・数理解析専攻（数学系）協力教員【大学院教育協力教員】

なお、学際融合1以外の中区分について、どの教員が所属するかは数学・数理解析専攻数学系のホームページで調べることができます。

数学系ホームページ： <https://www.math.kyoto-u.ac.jp/ja/people/faculty>

(裏面に続く)

氏名

(フリガナ)

(2) (1)で記入した希望中区分ごとに、修士課程入学後に勉強あるいは研究したいテーマや内容についてレポートを作成し、本調査書に添付して提出してください。用紙のサイズは A4 サイズとし、長さは全体で 3 ページ以内とします。またレポートの初めに、レポート内容に関するキーワードを記載してください。

(3) 特に勉強した書物・論文があれば下の枠内に記入してください。

(4) これまでに勉強した数学の内容に関して、志願者自身によって得られた結果でオリジナルと思われるものがある場合は、本調査書に添付してもかまいません。その際は冒頭にタイトルをつけてください。また用紙のサイズは A4 サイズとし、長い場合は 1 ページ以内の概要をつけてください。